

作曲に、経営に、生きる部活



「学校までの坂道の光景が懐かしい」と妹尾武さん

作曲家でピアニストの妹尾武さん(46、1988年卒)は、ピアノの練習時間を確保するため、自宅から近い甲南中学を選んだ。実際には学校が楽しすぎて、「練習はあまりしなかった」。

高校生になると、ピアノばかりの自分が軟弱に思えてホッケー部に入部。部活での付き合いや友情は「作曲に役立つはずだ」という直感もあった。

進学は桐朋学園大学音楽学部。在学中からポ

ップスの作曲を本格化させた。ゴスペラーズに提供して大ヒットした「永遠に」(2000年)は、応援していたラグビー神戸製鋼の試合を見たときに着想を得た曲だ。試合中の歓声、試合終了で人がまばらになっていく競技場、吹き抜ける風……。そんな情景に、阪神・淡路大震災で亡くなった親友のことなど、これまでの人生が重なった。チームへの感謝の気持ちとともに、「あなたの風になって全てを包んであげたい」という歌詞とメロディーが頭に浮かんできた。

楽曲提供と並行して、07年に尺八奏者の藤原道山さん、チェリストの古川展生さんと3人組ユニット「KOBUDOー古武道ー」を結成、演奏活動の幅も広げている。「音楽は形はなくても人の心に残る。それを演奏できる自分。だいたい味です」

元プロバスケットボー

ル選手で、結婚式場を運営するブレス・アス・オール社長の川辺泰三さん(34、2001年卒)は高校から甲南に進んだ。「ディフェンスで随一のコーチ」と評判だった当時のバスケット顧問、樋口英雄先生に教わりたかった。

高3でインターハイに出場を決めた。ノーシードでのぞんだ予選を1戦ずつ勝ち抜いた。決勝戦にはOBや他部の友人も応援に駆けつけ、出場が決まった瞬間には、全員がコートに集まってコーチらを胴上げした。「まるで『スラムダンク』のような光景だった。高校時代のバスケット仲間是一生ものです」

甲南大学バスケット部では関西リーグの得点主にもなってエースとして活躍。プロとして「大阪エヴェッサ」などで活躍したが、一昨年引退した。家業を継ぐ、という家族との約束があり、引退後は約束を守った。大学生時代は、バスケの練習でどんなに遅く帰っても、亡き母は寝ないで待っていた。日報の見方や数字の合わせ方を息子に教えるためだった。

「経営はスポーツといっしょ。チームワークだよ」。母の言葉が、今も背中を押している。(編集委員・根本理香、中塚慧)



「社会人3年目。自分も会社も成長させていきたい」と川辺泰三さん